

## 地球環境からみた湖沼の現状—太湖と琵琶湖—

川端厚子（大阪信愛女学院短大）

目的 今や世界中では、ペットボトルに入れて売られている飲料水を買って飲んでいる時代になってきた。上水道の水は、それほどに汚染されてきたのであろうか。ここに中国の太湖と日本の琵琶湖の湖水と、その水が上水道を通過して各家庭に供給された時の飲料水について水質試験を行い、水環境の現状と水道衛生の立場から比較検討を行った。

方法 1994年7月に太湖と琵琶湖の湖水を採取し、併せて上水道の飲料水も取水して水質試験を行った。水質試験の成分分析は、大阪府立公衆衛生研究所環境衛生課で行った。

結果 水質試験の結果から太湖では藻臭とカビ臭の他に有機物等が21.1mg/l検出され琵琶湖での2.6mg/lを大きく上回っている。塩素イオンが太湖では、35.1mg/lであり水道水では50.5mg/lである。大阪の水道水では22.8mg/lである。硫酸イオンは、太湖で48.3mg/lで水道水では54.2mg/lである。琵琶湖では、16.7mg/lであり水道水では35.0mg/lが検出されている。亜鉛をみると太湖では0.092mg/lであるが水道水では1.73mg/lという恐るべき数値が検出されている。大阪の水道水からは、0.010mg/lが検出されている。以上のような結果から琵琶湖の湖水も少なからず汚染されているが太湖の汚染は、最悪な状態である。太湖の周辺の環境は、鉱山や化学工場があり、農場があり、家屋が林立しており重金属類の含まれた排水や農薬を含んだ排水が流入している。太湖は、広くて浅い湖であるから汚染が進むのが速い。太湖の水は、上海、無錫、蘇州などの都市に配給される重要な水資源である。今回の水質試験の結果からは、早急に水環境の保護に力を注ぎ、安心して飲むことのできる美味しい水を守って行くように努力しなければいけないと思った。